



日本の畜産 改良と技術で育てます

耕作放棄地での放牧のすすめ

～よみがえる農地と地域のために～



放棄棚田での放牧



放棄ミカン園での放牧



放棄クリ園での放牧



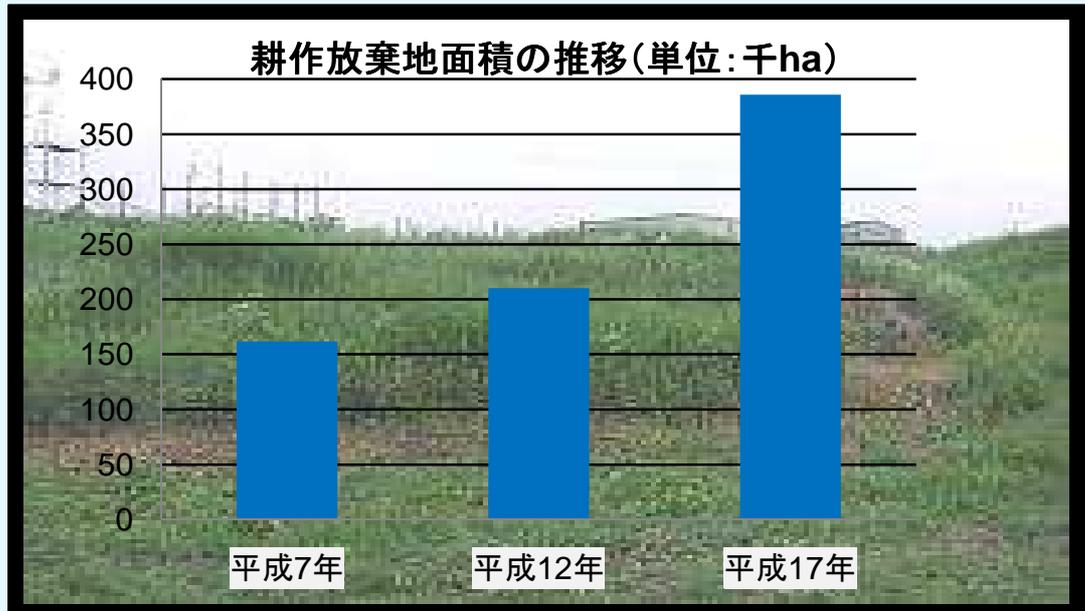
放棄普通畑での放牧

平成21年12月
作成・編集：(独) 家畜改良センター

1. 増加する耕作放棄地

近年、高齢化による農業従事者の減少等で耕作放棄地が増加し、平成17年の耕作放棄地面積は38.4万haに達しています。

このような耕作放棄地は景観が悪いばかりでなく、雑草や病害虫、鳥獣害の発生源となるため、農村地域での「生産環境」や「生活環境」に悪い影響を与え、更なる耕作放棄地の拡大を誘発するという悪循環を引き起こしています。



資料: 2005年農林業センサス

2. 放牧のメリットとは

家畜管理の省力化

- ・ 日々の餌やり、糞だし等の作業が減る。
- ・ 購入飼料が削減できる。
- ・ 飼料生産作業が縮減できる。

家畜の健康増進

- ・ 舎飼よりストレスが少ない。
- ・ 強健で長生き、産次数が増える。
- ・ 難産が少なくなる。

景観の保全・農地の復元

- ・ 雑草がなくなり耕作放棄地等の農地への復元が容易になる。

生産・生活環境の改善

- ・ 雑草・病害虫や鳥獣害の発生が減少する。

情操教育の場

- ・ 家畜とふれあえる。

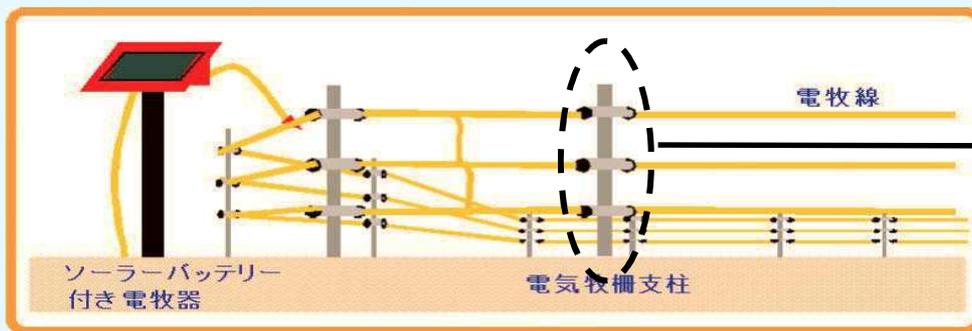


3. 放牧をするためには(牛編)

牛は適切な放牧馴致によって簡易な電牧と安価な資材を活用して放牧することが可能です。放牧地の面積は草の量にもよりますが、牛2頭当たり60～70aです。近隣に民家があったり、周辺の河川の水が取水されている場合、放牧できるか十分に確認してください。

3-1. 電気牧柵の設置

パイプハウス廃材を支柱に利用したり、漏電防止のためにゴムホース、塩ビパイプ等を利用することで、低コストで簡単に設置可能です。



ゴムホースによる漏電防止

1. 牧柵設置場所の刈り払い



牧柵の漏電防止のため設置場所を刈り払う。

2. 支柱の設置



約5～10m間隔に支柱を打ち込み、漏電防止用のゴムホースを地上約50cmと約90cmに取り付ける。

3. ポリワイヤー張り



電牧用ポリワイヤーを支柱のゴムホースに通しながら張る。

4. 補助支柱の設置



ワイヤーがたるまないようワイヤーに補助支柱を括りつける。

5. 出入り口の設置



ゲートハンドルをとりつけ、上下のポリワイヤーをバイパス接続する。

6. 電牧器の接続



アース棒をしっかりと打ち込む。接続後、バッテリーチェッカーで電圧を確認。危険表示板を設置。

3-2. 放牧の準備

1. 牛に電牧を覚えさせる

脱柵の危険のないパドック等で電牧を張り、牛に触らせます。

電撃の痛みを覚えた牛は電牧に近づかなくなります。

牛は好奇心が強く、自ら電牧に触ります。



2. 牛を放牧地に慣らす

牛は群れを好むので2頭以上で放牧します。

放牧未経験牛に、放牧草を食べるためのコツを覚えさせましょう。

放牧未経験牛は、初めは放牧経験牛と放牧すると良い。



3. 水飲み場の設置

水飲み場は泥濘化しやすいので、移動の容易な水槽を設置します。

1頭当たり夏場で35L/日、秋から初冬で15L/日程度の水が必要です。

沢や小川を水飲み場として直接使用してはいけません。



水槽は安価に入手できるものや自家製のものを活用する。

4. 日陰を作る

牛は寒さには強いが暑さには弱い動物です。

樹木を残したり、パイプハウスの骨組みに寒冷紗を張る等して日陰を作ります(ブルーシートは日差しを通すので注意)。



5. 牧草の導入

蹄耕法(牛の踏みつけにより種子を定着させる方法)など簡易な方法により牧草を導入することで、牧養力を高め安定的な放牧が可能となります。

バヒアグラス、センチピードグラス等を導入した放牧地(熊本県)。



4. 放牧をするためには(ヤギ編)

ヤギは小型で扱いやすく、草の選び食いが少ないので小規模な土地など様々な耕作放棄地の解消には最適な家畜です。

繫牧器具

・ヤギは小型で運動性が高く、電牧では脱柵しやすいため、耕作放棄地等で利用する場合は繫ぎ飼いが低コストです。繫牧器具の材料費は2頭で8千円程度です。



繫牧用杭。鉄棒にアングル等を溶接して自作。



繫牧用杭。古タイヤに鉄棒を溶接して自作。



繫牧用のロープ。ワイヤーの先端にナスカンをつけ、自作。ホースはロープの絡まり防止のため。

放牧時の留意点

- ・放牧地の面積は草の量にもよりますが、ヤギ2頭で20～30aが目安です。
- ・ヤギは群れを好むので2頭以上で放牧します。
- ・日よけ・雨よけの場所を設けるとともに、タライ等に新鮮な水を汲み置きして下さい。
- ・樹木の皮も食べてしまうので、果樹園等では食害防止のため幹を金網等で覆って下さい。



シート等で雨よけ場所を確保します。



タライ等で飲水させます。

5.放牧中の家畜の管理

1. 脱柵を予防する

牧柵の状況、家畜の頭数と行動、草・水の状態等を毎日確認します。

- 餌や水が不足すると、観察時に近寄ってきたり鳴いたりします。
- 家畜の栄養状態をチェックします。
- 餌が少なくなると脱柵の危険度が高くなるので、転牧を検討します。



腰骨が骨張って、肋骨の後ろの凹部のへこみが目立つ牛は痩せすぎ。



肋骨すべてが分かる、棘突起(背骨)がとびでてとがって見えるヤギは痩せすぎ。

2. 家畜の健康状態を確認する

急に痩せたり歩き方が変になっていないか、糞の状態は正常か、鼻水や咳をしていないか等を確認します。

- ワラビ等の中毒にも注意。
- ダニ対策はバイチコール等のプアオン剤を使用法に従い、月1～2回塗布する。
(ヤギの場合は腰マヒ対策も兼ねてイベルメクチンを塗布)



プアオン剤



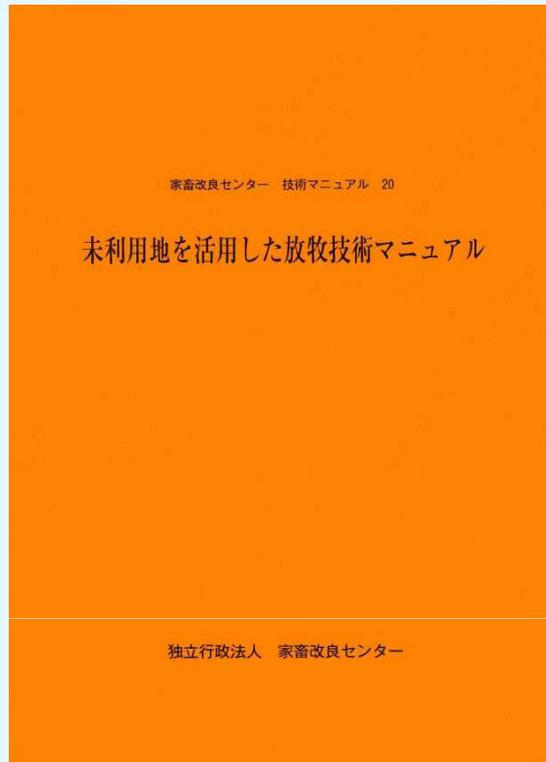
牛の背に沿って投薬

耕作放棄地などの未利用地を活用した放牧技術について、もっとお知りになりたい方は、「未利用地を活用した放牧技術マニュアル」をご覧ください。

本マニュアルは、インターネットでご覧になれます。

以下のアドレスから「実証展示」を選択し、続いて「未利用地への肉用牛の放牧」を選択して下さい。

<http://www.nlbc.go.jp/>



目次

- I 未利用地を放牧利用するために
 - 1. 未利用地の種類と活用方法
 - 2. 放牧地の適正な利用
 - 3. 放牧牛の選定
 - 4. 牧柵の設置
 - 5. 飲水器の設置
 - 6. その他施設の設置
 - 7. 衛生対策

- II 未利用地を放牧地として有効利用するために
 - 1. 放牧地の草地化
 - 2. その他

III 取り組み事例

(独)家畜改良センターでは、耕作放棄地などの未利用地を活用した放牧の実証展示及び技術指導を行っています。放牧技術についてのご質問、視察のご希望等がございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

(独)家畜改良センター

(黒毛和種)

〒961-8511 西白河郡西郷村小田倉原1番地

電話:0248-25-2231 FAX:0248-25-3990

十勝牧場 業務第1課

(黒毛和種他)

〒080-0572 北海道河東郡音更町駒場並木8番地1

電話:0155-44-2131 FAX:0155-44-2215

奥羽牧場 種畜課・飼料課

(日本短角種、黒毛和種)

〒039-2567 青森県上北郡七戸町鶴児平1番地130

電話:0176-62-3281 FAX:0176-62-3283

茨城牧場長野支場 種苗業務課 (山羊)

〒385-0007 長野県佐久市新子田2029番地1

電話:0267-67-2501 FAX:0267-68-4743

鳥取牧場 種畜課

(黒毛和種)

〒689-2511 鳥取県東伯郡琴浦町出上14番地

電話:0858-55-1511 FAX:0858-55-2329

熊本牧場 業務課

(褐毛和種)

〒865-0073 熊本県玉名市横島町共栄37番地

電話:0968-84-3660 FAX:0968-84-3708

宮崎牧場 種畜第二課

(黒毛和種)

〒886-0004 宮崎県小林市細野5157番地29

電話:0984-23-3500 FAX:0984-24-0953



現地検討会



実証展示



資料の取り扱いについて

本掲載事項について、複製、転載及び引用の際は、必ず家畜改良センターの了承を得て下さい。